令和　３　年　前　期　授業評価報告書	氏名	玉島　健二

１．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①「現代社会と女性」
　学科・コースの担当教員及び事務局教務課の協力を得て、スムーズな運営ができた。また、「ガイダンス」、「キャリアについて考える」、「人権について考える」、「生き方について考える」等をテーマにすえ、１５回の授業を構成した。
　新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令されたため、１回休講となり、レポート対応となった。
②「長崎観光入門」
　令和３年度からの開講のため、前年度の成果と課題はない。

２．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①「現代社会と女性」
　前年度との大きな変更はなく、「ガイダンス」、「キャリアについて考える」、「人権について考える」、「生き方について考える」等をテーマにすえ、１５回の授業を構成する。
　今年度は、「消費生活支援講座」をこれまでの２年次から１年次に移行した。
②「長崎観光入門」
　新規開設の授業である。長崎の歴史、文化等の理解、「長崎さるく体験」、お勧め観光スポット紹介等を柱として授業を進めていく。

３．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①「現代社会と女性」
　・１年次：「ガイダンス」、「キャリアについて考える」、「人権について考える」、「生き方について考える」等をテーマにすえ、１５回のうち１１回の授業を行う。うち、「消費生活支援講座」を２年次から１年次に移行して行う。
　・２年次：「就職するにあたって」、「年金セミナー」、「胎児の人権を考える」、「コミュニケーション力を高める」の４回実施。うち３回は外部講師に依頼して実施する。
②「長崎観光入門」
　・長崎の歴史・文化、「長崎さるく体験」、お勧め観光スポット紹介作成を柱に実施する。

４．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①「現代社会と女性」
　・１年次の前期は１１回のうちの５回実施したが、本格的な内容に触れていないので評価は２年生よりも低い。２年生の評価（全体的な満足度）は平均４．３となった。

②「長崎観光入門」
　・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、「長崎さるく体験」を中止した。全体的な満足度は平均４．４５とまずまずであった。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
現代社会と女性	20S	4.5	4.5	4.6	4.5	6.8分	4.5
長崎観光入門	20S	4.8	4.6	4.8	4.9	67.5分	4.6
現代社会と女性	20L	4.4	4.4	4.5	4.3	28.6分	4.4
長崎観光入門	20L	4.3	4.3	4.6	4.3	47.0分	4.3
現代社会と女性	20Y	4.1	4.1	4.1	4.1	17.0分	4.1
現代社会と女性	21S	4.0	4.0	3.8	4.0	17.5分	3.7
現代社会と女性	21L	3.8	3.9	3.5	3.8	15.0分	3.8
現代社会と女性	21Y	4.1	4.3	4.1	4.1	19.3分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
現代社会と女性	20S	必修	23	85.2	3	13.6%	16	72.7%	3	13.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎観光入門	20S	選択必修	9	75.3	0	0.0%	2	25.0%	6	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
現代社会と女性	20L	必修	23	85.1	7	30.4%	11	47.8%	5	21.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎観光入門	20L	必修	23	82.5	7	30.4%	7	30.4%	7	30.4%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
現代社会と女性	20Y	必修	92	86.3	18	19.6%	66	71.7%	8	8.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
①アクティブラーニング 　「現代社会と女性」では受講者数、教室等の関係で実施できなかったが、１５回目の外部講師は学生とのやりとりの中で授業を進められたので、満足度は高かった。 　「長崎観光入門」は、前半はほぼ講義形式であったが、後半は自ら調べ、まとめるという形で授業を進めることができた。 ②「オフィスアワー」 　「長崎観光入門」で、１名の学生に対し指導した。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
①「現代社会と女性」 　・１５回の授業内容の見直しが必要ではないかと考えている。運営委員会でも協議・検討したい。 ②「長崎観光入門」 　・今年度が初めての開講科目であったので、次年度は学生が積極的に取り組める内容や手法を検討していきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	太田　美代

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

〇全体的な満足度では、担当するほとんどの科目で4.0以上であったが、「給食経営管理論」のみ3.0だった。
〇栄養士実力認定試験における、「給食経営管理論」の正答率は70.4%と良い成績を収めることができた。
〇実習系の科目に関しては満足度が高かったが、講義に関しては学習内容が多く、専門的な基礎知識であるにもかかわらず、その重要性を十分に認識させることができなかった。学生の実態に対して教科書のボリュームがあるため、内容を絞って教授し、ワークシートの工夫をすることを今年度に向けての課題とした。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

〇専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者８０%以上、及びＡ認定６０%以上を目指す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

〇実習演習の授業において、グループや個人での自己評価の場面をつくり、認め、励ますことを通して学びに向かう主体的な態度を育成する。
〇機会をとらえて栄養士実力認定試験の過去問にあたらせ、理解不十分な分野を把握して指導を行う。１年生に対しても教材研究を丁寧に行い、授業のポイントを復習できるワークシートを作成して授業にあたる。
〇基礎学力が十分でない学生も在籍するため、学力向上の強化策として学習会を支援し、教育サポートスタッフの活用を図る。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・「給食経営管理論」を含め、すべての科目で全体的な満足度が4.0以上だった。その一方で「栄養教育指導論実習Ⅱ」の成績ではC評価者が多かった。知識・理解が弱いところがあったので、次年度はその部分の演習を強化して着実に身につけさせたい。
・知識の定着を図る確認テストへの取組が不十分だった。学習会を利用して授業で習得できなかった部分の補習を行う。
・アンケートの結果、ワークシートは好評だった。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
栄養教育指導論実習Ⅱ	20S	4.3	4.3	4.4	4.2	74.2分	4.3
給食経営管理論実習Ⅱ	20S	4.5	4.5	4.6	4.5	75.9分	4.5
学外実習総合演習	20S	4.5	4.5	4.6	4.4	71.1分	4.5
ゼミナール	20S	4.6	4.6	4.8	4.6	42.0分	4.2
子どもの食と栄養	20Y	3.8	3.7	3.9	3.6	28.0分	3.6
長崎食育学	21S	4.3	4.4	4.4	4.4	41.3分	4.4
給食経営管理論	21S	4.0	4.0	4.2	4.0	33.8分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養教育指導論実習Ⅱ	20S	選択	23	75.5	3	13.6%	9	40.9%	1	4.5%	9	40.9%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論実習Ⅱ	20S	選択	19	87.1	7	36.8%	9	47.4%	3	15.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	21S	必修	23	79.3	0	0.0%	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
給食経営管理論	21S	必修	23	76.6	5	20.8%	8	33.3%	1	4.2%	9	37.5%	1	4.2%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢を促した。 ・実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。 ・個別相談には随時対応しているが、知識の習得にかなり時間を要する学生がいるので、学習会を利用したり、グループワークで教えあう時間を設けたりして進めていく。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
・「給食経営管理論」については、学生が意欲をもって授業に臨むことができるようクイズ形式の確認テストを工夫する。 ・実習系の科目については、現行の方針を継続しつつ、提出物の作成に苦慮する学生に対して、学習会や個別指導で対応する。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	桑原　真美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

栄養学Ⅰ、食品衛生学については、学生の理解度がやや低かったため今年度は授業内容および授業方法の見直しを行う。
食品学基礎実験については、実験器具の扱い方やレポートの作成方法をより丁寧に指導するとともに、食品学Ⅰとの連携を図る。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

栄養学Ⅰ、食品衛生学については、学生の理解度がやや低かったため今年度は授業内容および授業方法の見直しを行う。
食品学基礎実験については、実験器具の扱い方やレポートの作成方法をより丁寧に指導するとともに、食品学Ⅰとの連携をとる。
公衆衛生学は今年度より担当となったため、パワーポイントスライド教材の作成に力を入れる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

食品衛生学は昨年度まで板書形式の授業を行ってきたが、学生の理解度満足度共にやや低い傾向にあったため、パワーポイントスライドを使用した授業に切り替えた。食品学基礎実験は直接食品学Ⅰ担当の先生と連携を図ることはなかったが、学生に食品学Ⅰの進捗状況を確認しながら導入部分の説明方法を変更した。公衆衛生学は後半8回を担当し、栄養士実力認定試験および管理栄養士国家試験に出題されている内容を中心に授業を組み立て、教材を作成した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

食品衛生学、食品学基礎実験の学生アンケートにおける理解度、満足度は昨年度と比較してやや上昇したが大きな変化はみられなかった。公衆衛生学については他の科目と比較して全体的に学生からの評価は低い傾向にあった。特にビジネス医療秘書コースの学生においては内容やレベルが4.0、理解度が3.7、満足度が3.9と低い値を示している。一方、一緒に授業を受けた栄養士コースの学生の評価では内容やレベルが4.3、理解度が4.0、満足度は4.2であった。内容とレベルのの見直しが今後の課題であり、それによってその他の評価も上昇すると考えられる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
公衆衛生学	20S	4.3	4.3	4.2	4.0	31.4分	4.2
学外実習総合演習	20S	4.5	4.5	4.6	4.4	71.1分	4.5
ゼミナール	20S	4.8	5.0	5.0	5.0	42.0分	5.0
公衆衛生学	20L	4.0	4.0	4.0	3.7	38.2分	3.9
長崎食育学	21S	4.3	4.4	4.4	4.4	41.3分	4.4
食品学基礎実験	21S	4.4	4.5	4.4	4.2	88.8分	4.3
食品衛生学	21S	4.4	4.5	4.0	4.0	47.5分	4.2
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	21S	4.4	4.5	4.3	4.1	41.3分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公衆衛生学	20S	必修	23	78.6	5	22.7%	6	27.3%	6	27.3%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
公衆衛生学	20L	選択	22	71.2	2	9.1%	3	13.6%	6	27.3%	11	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	21S	必修	23	79.3	0	0.0%	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
食品学基礎実験	21S	選択	23	79.7	5	20.8%	9	37.5%	6	25.0%	3	12.5%	1	4.2%	0	0.0%
食品衛生学	21S	必修	23	72.0	4	16.7%	4	16.7%	4	16.7%	11	45.8%	1	4.2%	0	0.0%
栄養学Ⅰ（基礎栄養学）	21S	必修	23	68.3	3	12.5%	2	8.3%	5	20.8%	12	50.0%	2	8.3%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
アクティブラーニングは未実施。オフィスアワーは時間を設けていたが質問に来る学生はいなかった。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
食品衛生学については、学生の意欲と理解度を高める工夫を行う。また、公衆衛生学については授業内容とレベルの見直しを行う。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	桑原　倫子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

調理学…今年度が1年目の授業ということもあり、ペース配分が思うようにいかなかった。学生からの、『教科書を読むだけの部分があった』言う意見を参考に、授業の進め方を改善する必要がある。
調理学実習Ⅰ…前年度よりも教える内容を絞り、ゆっくりと授業を進めたため、一部学生には物足りないと感じられた部分があった。
子どもの食と栄養…授業の内容や進め方は、前年度と同様に行った。しかし定期試験の問題のレベルを上げたため、前年度よりも成績の差が顕著になった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

調理学…授業のペース配分を見直し、学生が復習しやすいような資料を作成する。
調理学実習Ⅰ…基本的実技・技術の習得率をより高めるため、実技練習の時間を多くとらせる。
子どもの食と栄養…穴埋め式の資料などを作成し、より簡素にポイントを絞った授業を行う。定期試験の内容を見直す

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

調理学…重要ポイントをしぼり、ペース配分に配慮しつつ授業を行った。また、配布資料とスライドを改良した。
調理学実習Ⅰ…丁寧な示範と、技術習得が遅れている学生には積極的に関わり指導を行った。
子どもの食と栄養…新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、前期は実習や演習を行わず、配布資料やスライドを充実させ講義のみを行った。定期試験の内容は、前年度よりも簡単なものにした。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

調理学…授業のペース配分については、前年度よりも改善していた。配布資料とスライドの改良も、学生の理解度上昇に貢献していたので、引き続き改良を行う。
調理学実習Ⅰ…丁寧な示範や基礎的な指導を満遍なく行ったので、高度な調理技術習得はできないものの、学年全体の基礎的技術習得に繋がった。
子どもの食と栄養…前年度よりもポイントを絞って授業を行ったつもり（保育士試験出題程度の基礎的レベル）であったが、学生からは内容が高度過ぎる等の声が上がった。また、私自身が無意識のうちについていた　溜息　についての指摘もあり、これは大いに反省している。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
学外実習総合演習	20S	4.5	4.5	4.6	4.4	71.1分	4.5
ゼミナール	20S	4.8	4.8	4.8	4.8	30.0分	4.8
子どもの食と栄養	20Y	3.8	3.7	3.9	3.6	28.0分	3.6
長崎食育学	21S	4.3	4.4	4.4	4.4	41.3分	4.4
調理学	21S	4.4	4.4	4.3	4.3	21.3分	4.4
調理学実習Ⅰ（調理実験を含む）	21S	4.5	4.6	4.5	4.5	31.3分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
長崎食育学	21S	必修	23	79.3	0	0.0%	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
調理学	21S	必修	23	72.2	3	12.5%	5	20.8%	5	20.8%	10	41.7%	1	4.2%	0	0.0%
調理学実習Ⅰ（調理実験を含む）	21S	必修	23	78.8	4	16.7%	9	37.5%	7	29.2%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
スライドや、手元が写るモニターを活用し授業を行った。 オフィスアワーの実施状況については、試験前に質問に訪れる学生があったので、その都度対応した。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
調理学…引き続き資料やスライド、必要ならば動画等も用い、ポイントを絞った理解度の高い授業を行う。 調理学実習Ⅰ…基礎的技術習得のため、遅れている学生には積極的に関わり、きめ細やかな授業を行う。 子どもの食と栄養…まずは自己管理を見直し、万全の体調で授業に臨む。授業回数の削減（30回→15回）が検討されているので、回数に応じた簡素化を行う。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	古賀　克彦

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ）
③　献立展開を苦手とする学生を減らす（ゼロを目指す）（臨床栄養学実習）
④　実習先評価の向上。（学外実習Ⅰ）
⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①　栄養指導に必要な基本的事項の修得を目指す（栄養教育指導論Ⅰ）
②　各種疾患の概要とその食事療法について理解することを目指す（臨床栄養学Ⅱ）
③　各種治療食の調理方法の修得とすると同時に、献立展開の技術習得を目指す（臨床栄養学実習）
④　学外実習の円滑な実施を目指す（学外実習Ⅰ）
⑤　外部講師を多く招いて実施する長崎食育学の円滑な実施（長崎食育学）

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①　授業内容の見直し（重要部分を重点的に指導）。また栄養士実力認定試験過去問の解説導入。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　授業内容の見直し（重要部分を重点的に指導）。また栄養士実力認定試験過去問の解説導入。（臨床栄養学Ⅱ）
③　学生が苦手とする献立展開については同じ内容のレポートの繰り返し添削を実施（臨床栄養学実習）
④　学外実習の意義や目的を繰り返し説明した（学外実習Ⅰ）
⑤　調理実習の増加や外部講師の変更など授業内容の一部見直しを実施

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①　昨年度と比較すると平均点大幅に低下し、再試験受験者は増加した。学力に問題のある学生は一定数存在しており、これらの学生指導に苦慮した。（栄養教育指導論Ⅰ）
②　昨年度と比較すると若干平均点が低下した。今後は学習に取り組まない学生への指導が課題。（臨床栄養学Ⅱ）
③　今年度もレポート提出状況が悪い学が存在した。レポートへ取り組む姿勢は個人差が存在。（臨床栄養学実習）
④　新型コロナウイルスの影響の為、学外での実習は中止し、学内での指導に変更した。（学外実習Ⅰ）
⑤　今年度は計画通りに開講することが出来た。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で辞退する講師が多く存在した。今後、講師陣の高齢化が予想されるため、新たな講師陣を考えていかないといけない思われた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	20S	4.5	4.4	4.2	4.1	31.6分	4.4
臨床栄養学実習	20S	4.5	4.6	4.6	4.4	55.3分	4.5
学外実習総合演習	20S	4.5	4.5	4.6	4.4	71.1分	4.5
ゼミナール	20S	4.5	4.5	5.0	5.0	15.0分	5.0
長崎食育学	21S	4.3	4.4	4.4	4.4	41.3分	4.4
栄養教育指導論Ⅰ	21S	4.1	3.9	4.2	4.0	27.5分	4.2

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
臨床栄養学Ⅱ（食事療法の原理）	20S	選択	23	71.5	2	9.1%	6	27.3%	3	13.6%	11	50.0%	0	0.0%	0	0.0%
臨床栄養学実習	20S	選択	23	76.8	5	22.7%	7	31.8%	7	31.8%	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%
長崎食育学	21S	必修	23	79.3	0	0.0%	13	54.2%	8	33.3%	3	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
栄養教育指導論Ⅰ	21S	必修	23	66.9	2	8.3%	3	12.5%	5	20.8%	13	54.2%	1	4.2%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
栄養教育指導論Ⅰや臨床栄養学Ⅱなどの講義科目においてはアクティブラーニングは実施できなかった。 学内で実施した学外実習Ⅰでは、集団栄養指導等で集中的にグループワークが実施できたと思われる。 オフィスアワーに関しては可能な限り随時学生の相談を実施した。2年生は学外実習、就職活動、定期試験対策、非常勤講師担当科目に関する質問、学友自治会活動の悩み等があり、多くの学生が質問や相談に訪れた。1年生に関しては2年生ほど研究室を訪れない状況で、学生生活や定期試験に関する相談や質問が見られた。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
①　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（栄養教育指導論Ⅰ） ②　成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。（臨床栄養学Ⅱ） ③　献立展開を苦手とする学生を減らす（ゼロを目指す）（臨床栄養学実習） ④　実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。（学外実習Ⅰ） ⑤　一部授業内容の見直し（講師の変更等を含めて）（長崎食育学）

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	江頭　万里子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生による授業評価の結果は、4.0～4.7点で、特に問題はなかったと思われる。但し、マナー学のみを見れば、点数評価をしている全項目の平均点が4.04点であり、昨年度より0.28点、教員の教え方は4.0点で0.5点減少していた。授業法で昨年度から変更したのは、コロナ感染症対策のため、グループディスカッション等学生同士の学び合いの時間を減らした点である。来年度は、状況に応じて学生同士の学び合の時間を増やしていきたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）秘書実務２では、アクティブラーニングを行うことで学生の主体性を養う。
（2）秘書概論では、学生の学習意欲を上げるために、声掛けを多く行う。
（3）マナー学では、授業に集中できるように配布資料の内容を改善する。
（4）ゼミナールでは、進捗状況が把握できるように報連相の徹底を促す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（1）秘書実務２では、秘書実務の集大成として秘書の１日を演じる総合演習（グループワーク）を行った。
（2）秘書概論では、正科外の「秘書検定対策講座」と関連づけ、声掛けを多く行った。
（3）マナー学では、昨年度の穴埋め資料を止め、配布資料を読んで質問に答える課題に変更した。
（4）ゼミナールでは、授業の最初と最後に進捗状況の確認の時間をとる。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

（1）秘書実務２では、総合演習に意欲的に取り組んでいる様子が見られたが、もう少し時間が欲しかったとのコメントがあったので、実施方法の
　検討が必要である。
（2）秘書概論は、学生アンケートの４項目で昨年より高くなっていた。特に「教員の教え方」は4.2点から4.7点へ上がっており、声掛けの効果と考
　えられる。但し、声掛けの目的は学生の学習意欲の向上だったが、「学生の学習意欲」は4.3点で昨年と変わらなかった。学習意欲を上げる方
　法の再検討が必要である。
（3）マナー学では、次の時間の資料を前の授業時に渡し、予習の上、簡単な問に応えるように指示していたが、学外学習時間0の学生が昨年度
　の3人から8人増加し、11人、C評価の学生が1人から9人増加し10人という結果だった。授業資料と授業法の検討が必要である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
秘書実務２	20L	4.6	4.5	4.4	4.3	70.4分	4.5
ゼミナール	20L	4.5	4.5	4.7	4.5	55.0分	4.5
マナー学	21S	4.3	4.1	4.0	3.9	20.0分	4.0
秘書概論	21L	4.7	4.7	4.3	4.4	87.5分	4.5
キャリアアップセミナー1	21L	4.2	4.0	4.1	4.1	22.5分	4.2
プレゼミナール	21L	4.3	4.2	4.3	4.2	55.0分	4.1

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
秘書実務２	20L	必修	23	79.2	5	21.7%	6	26.1%	10	43.5%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
マナー学	21S	必修	23	75.1	2	8.3%	8	33.3%	3	12.5%	10	41.7%	1	4.2%	0	0.0%
秘書概論	21L	必修	24	81.6	4	16.7%	11	45.8%	9	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87.1	14	58.3%	10	41.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
秘書実務２では、基本的にロールプレイングを用いたアクティブラーニング、秘書概論、マナー学でもできる授業時にはペアワーク、グループワーク、ロールプレイングを用いたアクティブラーニングを行った。 オフィスアワーは、指定した時間の他、在室時は随時訪問可としていたので、教員在室時には指定の時間に関係なく訪問があった。内容は、授業内容、検定試験についての質問であった。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
目標：学生の学習意欲を上げる。 改善方法：授業資料とリアクションペーパーの改良を試みる。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	濵口　なぎさ

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・新型コロナウイルスの影響で約3週間の休校があったが、この期間に学生たちが深く考えて取り組む課題を提示し、休校後にこの課題内容を踏まえて授業を進行したことで、前年度よりも学生の理解が深くなったと感じた。
・ビジネス文書作成１では、タイピング練習用カードが効果的に活用されるようになり、初心者クラス、経験者クラスともモチベーションの維持にも役立ち、全員がタッチタイピングをマスターすることができた。
・学生による授業評価アンケートの結果から、教員の教え方や学生の理解度、全体的な満足度が全て4以上となっており、これまでの方法を踏襲しながらも、より良い授業ができるよう工夫を重ねたい。
・休校の影響で、演習系科目での課題数が前年度より少なくなってしまった。取り組めなかった課題については、後期の科目で補いたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・学生達が能動的に授業に参加し、授業外の学修時間を確保するように課題の出し方を工夫する。
・提出された課題のチェックを早めに行い、学生一人一人の理解度に合わせた効果的なフィードバックを行えるよう配慮する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・ビジネス文書作成１は経験者クラスが4名と少なく、大部分が初心者クラスとなった。前期最後の時点で同じ内容で終了できるよう、初心者クラスの学生への課題を充実させ、空き時間を活用して取り組むような指導を心がける。
・ビジネス文書作成３については、昨年度に引き続き日商PC検定やMOSを題材として使用し、学生が自主的に、より応用的なレベルでのドキュメント作成ができるようになることを目指した指導を行う。
・情報検索については、例年以上に教科書を活用し、根拠となるデータの探し方やレポートの作成について詳しく指導する。
・医事コンピュータは、2年ぶりに受講者がいたことから、一昨年度の内容を見直した上で、実践で応用できるような課題を準備して臨む。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・学生による授業評価アンケートの結果を見ると、全ての科目で内容やレベル、教員の教え方が4以上となっていることから、今年度のやり方で特に問題はなかったと言えるが、より良い授業を行うための努力は続けて行きたい。
・ビジネス文書作成1の授業評価アンケートの自由記述欄には、タッチタイピングの技能が身についたことで自信がついたと書いている学生が多く、練習カードを利用して実力がついていることが目に見えるように工夫したことが功を奏したものと思われる。
・医療管理学については、学生の理解度が3.4と低く、学習意欲も3.9となっている。講義科目でどうしても一方的な授業内容になってしまったため、次年度は内容を見直し、理解度を確認するための小テストなどを活用していきたい。
・学期末近くになり、担当する複数の演習科目で課題を出したが、チェックに手間取り、時期に合わせた効果的なフィードバックができなかった。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネス文書作成３	20L	4.5	4.5	4.5	4.3	62.6分	4.4
医事コンピュータ	20L	4.7	4.7	4.7	4.1	51.4分	4.6
キャリアアップセミナー2	20L	4.3	4.3	4.3	4.3	36.5分	4.1
ゼミナール	20L	4.7	4.7	4.5	4.5	20.0分	4.3
情報処理演習	21S	4.2	4.1	4.1	4.0	27.4分	4.1
ビジネス文書作成１	21L	4.6	4.6	4.6	4.3	41.3分	4.5
情報検索	21L	4.3	4.2	4.3	4.1	43.8分	4.3
医療管理学	21L	4.1	4.2	3.9	3.4	48.6分	3.9
キャリアアップセミナー1	21L	4.2	4.0	4.1	4.1	22.5分	4.2
プレゼミナール	21L	4.3	4.2	4.3	4.2	55.0分	4.1

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネス文書作成３	20L	必修	23	88.1	13	56.5%	4	17.4%	4	17.4%	2	8.7%	0	0.0%	0	0.0%
医事コンピュータ	20L	選択	7	91.3	6	85.7%	1	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	21S	必修	23	79.9	6	25.0%	5	20.8%	9	37.5%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネス文書作成１	21L	必修	24	86.1	4	16.7%	19	79.2%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報検索	21L	必修	24	90.3	19	79.2%	4	16.7%	1	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療管理学	21L	選択	21	83.6	4	19.0%	9	42.9%	8	38.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87.1	14	58.3%	10	41.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
・情報検索では、今年度根拠となるデータを元にしたレポート作成を行ったのち、その概要を発表させた。要点を要領よくまとめて発表する経験として効果的だった。 ・各科目の欠席者や検定試験受験希望者に対して、オフィスアワーや空き時間で補習を行った（随時）。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
・ビジネス文書作成1のタッチタイピングの練習は、5月中旬に終了するように指導し、学生たちができるだけ早い段階でビジネス文書作成に取り組めるようにし、基礎的な知識と技能の習得を目指す。 ・医療管理学については、授業内容を見直し、理解度を確認するためのまとめプリントや小テストなどを活用する。 ・学生が提出した課題のチェックをできるだけ早く行い、時期に合わせた効果的なフィードバックに努める。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	武藤　玲路

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1）前年度の社会心理学とビジネスデータ活用１・３の授業では、学生の基礎学力や応用力、学習意欲に二極分化の傾向が見られたため、今年度は授業の構成や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲と問題解決能力の育成に努めたい。
2）可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れた授業を実施し、主体性や問題解決能力、人間関係力の育成に努めたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1）学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を取り入れるようにする。
2）授業中の学生の発言や態度をその場で学生にフィードバックし、学習意欲や問題解決能力の育成に努めるようにする。
特に、社会心理学の授業の最後に、毎回授業の専門用語に関連する活用事例や感想を記述させるようにする。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1）今年度の社会心理学では、授業の前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いてテーマに関する用語や理論を説明し、授業の後半では教材の動画を上映してテーマの理解を深める授業構成とした。また、教員の質問に対する学生の発言をボーナス点として成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れたりした。
2）ビジネスデータ活用１・３では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成とした。また、定期試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解し、正確さと迅速さと問題解決能力の育成に努めた。さらに、授業の最終回には自分の理解度や弱点のフィードバックを行い、学習意欲の促進を図った。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1）学生による授業評価アンケートの結果では、講義科目の社会心理学と演習科目のビジネスデータ活用１と３を含む全科目において、①内容やレベル、②教員の教え方、③学生の学習意欲、④学生の理解度、⑤全体的な満足度は、殆どが4.0以上の高い評価であった。しかし、ビジネスデータ活用３とゼミナールは、内容やレベル、教員の教え方、全体的な満足度は3.7であり、最も低い結果であった。同様の傾向はゼミナールでも見られた。
2）授業担当教員による成績評価の結果では、ビジネスデータ活用１が平均75.0点、ビジネスデータ活用３が76.7、社会心理学が77.2点と昨年度より約10点程度低く、Ｓ・Ａの上位の成績評価を示した割合は、ビジネスデータ活用１が約４割、ビジネスデータ活用３が約７割、社会心理学が約５割で、昨年度同様にビジネスデータ活用１が非常に低い学修成果であった。これは、ビジネスデータ活用１が表計算ソフトエクセルの基礎知識として計算の公式や関数の書式を暗記する数理的な知識が必要なため、毎回の授業の復習が不可欠で、授業についてこれない学生が多いためと思われる。今後は、反復練習を多く取り入れた教授法を検討していく必要があると思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ビジネスデータ活用３	20L	3.9	3.8	4.2	3.9	73.0分	3.7
社会心理学	20L	4.4	4.2	4.4	4.2	57.4分	4.2
キャリアアップセミナー2	20L	4.3	4.3	4.3	4.3	36.5分	4.1
ゼミナール	20L	3.8	3.8	4.3	4.0	105.0分	3.7
ビジネスデータ活用１	21L	4.3	4.1	4.3	4.0	58.8分	4.1
キャリアアップセミナー1	21L	4.2	4.0	4.1	4.1	22.5分	4.2
プレゼミナール	21L	4.3	4.2	4.3	4.2	55.0分	4.1

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスデータ活用３	20L	必修	23	76.7	1	4.3%	16	69.6%	3	13.0%	3	13.0%	0	0.0%	0	0.0%
社会心理学	20L	必修	23	77.2	6	26.1%	5	21.7%	5	21.7%	7	30.4%	0	0.0%	0	0.0%
ビジネスデータ活用１	21L	必修	24	75.0	4	16.7%	6	25.0%	6	25.0%	8	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87.1	14	58.3%	10	41.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
１）アクティブラーニングの手法は前期のほぼ全授業で取り入れている。具体的には、グループディスカッションや自由研究のプレゼンテーションなどを実施している。 ２）オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるため、パソコンを用いて説明している。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
１）今後はビジネスデータ活用１とビジネスデータ活用３の表計算ソフト・エクセルの到達目標と教授法を改善・工夫し、学修成果の到達度と学習支援の満足度の向上に努めたい。 ２）社会心理学の授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたことは、学生と教員のフィードバックに大変有効であった。よって、次年度も継続して実施していきたい。 ３）できるだけアクティブラーニングの手法を取り入れ、学習意欲や問題解決能力の学修成果を重視した授業と評価を実施していきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	森　弘行

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・情報技術や理論などは、学生にとってあまり興味のない分野であり、論理的思考が苦手な学生に興味を持ってもらう授業構成を目指す。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・学生の基礎学力、応用力が低下していることもあり、情報リテラシーではこれまでより内容を減らし、授業時間外学習を促すためにメールを活用する。
・プログラミングは履修者が1人のため、学生の進度に合わせて授業を行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・情報リテラシーでは、理解を深めるためにノートを取る習慣をつけさせるとともに、メールによる毎回のレポート提出を求める。
・プログラミングは履修者が1人であり、学生のペースに合わせて授業を進行した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・情報リテラシーでは、内容量を減らしたにもかかわらず理解度2.8、満足度3.1と十分な成果が得られなかった。
・プログラミングではシラバスの授業計画にとらわれずに進めたが、ほぼ予定していた教材を消化できた。授業外学修時間も十分確保できていた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
プログラミング	20L	4.0	4.0	4.0	4.0	90.0分	4.0
キャリアアップセミナー2	20L	4.3	4.3	4.3	4.3	36.5分	4.1
ゼミナール	20L	4.2	4.2	4.2	4.2	24.0分	4.2
情報処理演習	21S	4.2	4.1	4.1	4.0	27.4分	4.1
情報リテラシー	21L	3.3	3.1	3.5	2.8	30.0分	3.1
キャリアアップセミナー1	21L	4.2	4.0	4.1	4.1	22.5分	4.2
プレゼミナール	21L	4.3	4.2	4.3	4.2	55.0分	4.1

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
プログラミング	20L	選択	1	70.0	0	0.0%	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
情報処理演習	21S	必修	23	79.9	6	25.0%	5	20.8%	9	37.5%	4	16.7%	0	0.0%	0	0.0%
情報リテラシー	21L	必修	24	76.3	1	4.2%	9	37.5%	8	33.3%	6	25.0%	0	0.0%	0	0.0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87.1	14	58.3%	10	41.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・オフィスアワーに訪問する学生はいないが、質問やPCトラブル等については随時対応。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・情報リテラシー、プログラミングとも、発表等の機会を設け、基礎的な知識と技術の習得を目指す。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	荒木　正平

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1．今年度アンケートの結果については、特にほぼ遠隔授業で実施することとなった1年生の満足度の低下が目立つ形となった。2年生の演習系の授業への取り組みの促しについても、コロナ対策のため、グループ演習より個別演習に比重を置く形に修正した。結果として、学生個別の取り組みの成果を明確にすることができたように思う。課題と成果を検討し、今後も授業改善を行っていきたい。
2．実習との連動は当然ながら、就職後の実践も見据えたい。学生の苦手分野や科目の分析等を進め、取り組みやすい授業構成をさらに進めることが今後の課題となる。事例などの活用の仕方なども再検討が必要となる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1．担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上（対面授業の制限への対応も想定する）
　学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。対面授業が大幅に制限される状況も想定し、今期成果が得られた個別演習の充実を図るとともに、学生の相互感染リスクを避けつつ負担が過多にならない範囲での演習方法を活用した授業方法の検討を進める（オンデマンド、学内PCネットワークシステムの活用などを検討）。
2．実習指導体制の確認と内容の充実
　①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携（新型コロナ対応体制の確認も含む）、教員間の協力・情報共有体制の強化、②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1．前年度に引き続き、対面授業の制限が必要となったため、動画配信による遠隔授業を実施した。内容としては、前年度実施した形を踏襲しながら、動画の内容をさらに充実させる形で実施した（教科書・レジュメでのまとめと確認による知識定着）。テーマに関する映像資料についても、前年同様の対応をとりつつ実施したが、やはり演習やロールプレイなどは制限が必要となった。
2．授業と実習の関連について、就業後の実践も意識しつつ取り組めるよう、授業内容・構成の刷新をはかっている。ただしやはり演習についてはかなりの制限を強いられている。学生毎の個別支援は徹底して行っている。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1．今年度アンケートの結果については、遠隔授業の要領が（教員・学生とも）つかめてきたことや、資料の充実を図ったことなどにより、1年生の満足度が改善されているようである。2年生の演習系の授業への取り組みについては、コロナ対策をとりつつグループ演習の比重を昨年度より多めに実施した。だが結果として、学生グループ活動のやりづらさは残っており、今後さらに課題と成果を検討し授業改善を行っていきたい。ゼミナール活動の時間が半減したこともあり、指導が個々の学生との関わりになりがちであり、満足度も低下している。グループ活動としてのゼミの意義を学生が実感できるようなゼミ運営を心掛けたい。

2．実習との連動は当然ながら、就職後の実践も見据えて今後も実施していく。授業研究を進め、さらに学生が理解しやすく、実習に取り組みやすい授業を組み立てていくことが今後の課題となる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
相談援助	20Y	4.2	4.3	4.2	4.2	41.4分	4.3
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.0	4.0	4.0	4.0	70.0分	3.8
社会的養護Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.3	4.3	50.0分	4.5
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
相談援助	20Y	選択	92	84.4	34	37.0%	33	35.9%	24	26.1%	1	1.1%	0	0.0%	0	0.0%
社会的養護Ⅰ	21Y	選択	97	79.4	27	27.6%	23	23.5%	24	24.5%	24	24.5%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
〈アクティブラーニングについて〉 今年度も、コロナ対策のための対面授業が大幅に制限された。ただし、グループ演習については、十分な対策を取りながら（当然、個人演習も盛り込みながら）、昨年度より多く実施することができた。オンデマンドと組み合わせた授業についても引き続き実施し、結果として、制限された状況において、学生の意欲的な取り組みと充実した学習成果を得ることができたと考える。1年生がこれまで実施してきたインタビュー形式の学習については、昨年度に続き実施をやむを得ず中止としたが、オンデマンド資料の充実を試みるなどの結果、満足度がやや改善されてきている。 〈オフィスアワーについて〉 効果的に活用できた。オフィスアワーをきっかけに学生が訪室しやすくなることで、よりスムーズな学生支援の実施につなげられた。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
１．担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上（対面授業の制限への対応も想定する） 　学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。対面授業が大幅に制限される状況も想定し、今期成果が得られた個別演習の充実を図るとともに、学生の感染リスクを避けつつ、また過剰な負担にならない範囲での演習方法を活用した授業方法の検討を引き続き進める（オンデマンド、学内PCネットワークシステムの活用などを検討）。 ２．実習指導体制の確認と内容の充実 　①実習指導授業の見直しと充実を中心にしながら、その他の授業においても、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携（新型コロナ対応体制の確認も含む）、教員間の協力・情報共有体制の強化、を行う。 　②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	織田　芳人

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

①保育方法論
実際に園で行われているICT活用の画像をできるだけ取り入れた。
②卒業研究
各グループが夏期休暇に入る前にアンケート調査を実施したので、後期は早々にアンケート調査結果をまとめていく。
③生活とアート
クイズ形式で質問して次週に解答する方法や、中学校の美術で取り上げられている作品を多く紹介したことに、親しみをもってもらえたようである。受講生のアドレスへメールで動画URLを送信した。ただし受信できないと知らせてくる特定の受講生がいたので、確実な連絡方法が必要である。動画撮影時は通常よりも大きめの声で話す必要がある。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論
新型コロナ感染症の状況によるが、可能ならパソコンの簡単な活用を実際に体験してもらう計画である。
②子どもと玩具
受講生が10名以上の場合は講義と演習を組み合わせて実施したい。受講生が少数の場合は個別に希望の玩具製作を実践させたい。
③ゼミナール
保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。
④生活とアート
新型コロナ感染症の状況によっては遠隔授業も含めながら、中学校美術でよく紹介される作品を中心に、その歴史的背景や作者の肖像画・肖像写真や生涯等を解説に含めて、関心をもたせたい。各回終わりに記述させるミニットペーパーに、質問が記述された場合は次回に対応する等、学修意欲を高める工夫をしたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

①保育方法論
新型コロナ感染症対策の一環として、昨年度と同様、オンデマンド授業になったので、パソコンの活用ができなかった。課題の一部に受講生の意見記述を設けて、その集計結果を円グラフで示す等のフィードバックを試みた。
②子どもと玩具
受講生が1名だったので、本人の希望に沿った玩具製作を実践させた。
③ゼミナール
保育に関わる研究報告の班は、実習先の幼稚園と保育所の教職員あてアンケート調査用紙を配布した。保育実践の班は附属幼稚園の預かり保育を利用してペープサートの実践を行った。
④生活とアート
中学校美術でよく紹介される作品を中心に、その作者の肖像画・肖像写真ともに生活等を解説に含めた。ミニットペーパーに示された質問にできるだけ対応した。残り3回になってから、実技がしたかったという学生が複数名いたので、学修意欲が高まることを期待して、急遽、1回だけ実技を入れた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育方法論
オンデマンド授業によって、知識習得という点では、筆記試験の結果から、比較的良かったように思われる。ICT活用の内容の変化がかなり速いので、内容の精査が必要のようである。
②子どもとだが
本人の希望に沿った玩具製作を実践させたので、教育的には意義があった。
③ゼミナール
各グループが夏期休暇に入る前にアンケート調査を実施したので、後期は早々にアンケート調査結果をまとめていく。比較的余裕をもって報告集の原稿作成ができる見込みである。
④生活とアート
ミニットペーパーに示された質問に対応して、女性芸術家に絞って1回講義し、また、実技も1回実施した。結果的に受講生が積極的に取り組んだように思われる。授業評価の面からは、シラバス通りに授業を進めることが求められるので、なかなか難しい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育方法論	20Y	4.2	4.1	4.1	4.1	45.5分	4.0
子どもと玩具	20Y	4.0	4.0	4.0	4.0	180.0分	4.0
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	3.9	3.7	4.0	4.0	34.3分	3.9
生活とアート	21S	4.2	3.8	4.2	3.7	5.0分	3.8
生活とアート	21L	3.5	3.5	4.0	3.5		3.5
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育方法論	20Y	選択	92	75.1	8	8.7%	29	31.5%	26	28.3%	29	31.5%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと玩具	20Y	選択	1	85.0	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
生活とアート	21S	選択 必修	5	62.8	0	0.0%	0	0.0%	2	33.3%	3	50.0%	1	16.7%	0	0.0%
生活とアート	21L	選択 必修	2	77.5	0	0.0%	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

「子どもと玩具」では受講生自身が興味関心のある保育玩具を選択し、実際に製作する活動を行った。「生活とアート」では、事前に出した課題を、グループで集約し、不足分はスマホで検索して確認する活動を試みた。オフィスアワーを設定しているが、それ以外で尋ねてくる学生がほとんどのように思われる。

６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①保育方法論
来年度からICT活用を1単位、7.5回以上に増やす必要があるので、早急に内容を詰めていきたい。パソコンの簡単な活用を実際に体験してもらうことも検討したい。
②子どもと玩具
保育実習に活用できるような玩具を中心に授業を組むことを検討する。
③ゼミナール
保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。
④生活とアート
実技を含める等、学修意欲が高まるような工夫を加える。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	島田　幸一郎

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

特別ニーズ教育

新型コロナ感染予防のために、グループ学習は実施できなかった。毎授業後のプリント記述内容や授業評価から、大半の学生が意欲的に取り組み理解も進んだことがうかがえるが、学習意欲が乏しい一部学生への対策は引き続きの課題である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

特別ニーズ教育

新型コロナ感染防止に留意しつつ、講義内容や個人発表、プリント記入等を工夫し、アクティブ・ラーニングの一層の充実に努める。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

特別ニーズ教育

毎授業、テーマを設定して関連する映像を視聴させる。テーマに沿った講義を行い、授業終了時にテーマ等に関する意見や感想を記述させ提出させる。次の授業冒頭にプリントを返却し、自主的な発表及び授業者からの学生の意見紹介や補足説明を行う。
なお、コロナ感染防止のため今回もグループ学習は実施しない。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

特別ニーズ教育

新型コロナ感染防止のために、授業形態や授業日及び教室等の変更を余儀なくされた。そのために、学生たちにも戸惑いが見受けられ学習意欲にも影響が出て、当初の目標を十分に達成できなかた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
特別な教育的ニーズの理解とその支援	20Y	4.1	4.0	4.1	4.1	32.3分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブ・ラーニング
特別ニーズ教育において取り組んでいるが、新型コロナ感染防止のためグループ学習は実施できなかった。

オフィスアワー
火曜日に実施したが、ほとんど利用がなかった。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

特別ニーズ教育

新型コロナ感染が収束する気配はないが、本来の授業形態を可能な限り維持し学生に動揺を与えないように努めたい。また、テーマを具体的に示し「自分で考え決定し行動できる」力を育む授業改善に努めたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	髙橋　秀樹

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

今年度より着任したため、前年度の成果と課題なし

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

前年度からの引き継ぎ科目（通年）に関しては、科目に関する学生の専門知識や能力の把握がしきれず授業を行う中で難しさがあった。後期の授業は通年を通して行うため、学生が専門知識、能力、技術を身につけられるよう講義と演習にて授業の実施をしていく。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

専門知識や技術の習得に関し、学生がイメージしやすいよう画像や映像また電子器具を用い、授業を行っていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

課題に関しては、前年度からの引き継ぎ科目（通年）は、科目に関する学生の専門知識や能力の把握がしきれず授業を行う中で難しさがあったため、学生の専門知識や能力を事前に把握できるよう努める。また前期同様に学生が主体的に考え、学びを深めれる環境を整えていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
運動遊びの実践（指導法）	20Y	4.0	3.8	4.1	4.0	23.1分	3.9
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.4	4.3	4.7	4.3	36.7分	4.3
体育実技	21Y	4.6	4.6	4.7	4.7	7.0分	4.7
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
運動遊びの実践（指導法）	20Y	必修	92	88.2	46	50.0%	39	42.4%	7	7.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

特定の課題に関し、グループワークとして学生が電子機器や書籍を用い、課題に対して調査し、調査内容をクラス内で発表し、クラス全体でディスカッションをする場を設けている。また演習科目とし、調査内容をロールプレイや作品として発表する機会を設けている。現在、学生の夏季休暇に伴いオフィスアワーを活用する学生がいない状況。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度も専門知識や技術の習得に関し、学生がイメージしやすいよう画像や映像また電子器具を用い、授業を行っていけるよう計画する。また学生が主体的に考え、学びを深めれる環境を整えていけるよう授業の計画をしていく。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	中澤　伸元

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

コロナの影響で振り回され、課題についての話し合いに時間がなかなかとれず、検討できなかった。音楽の知識と能力が把握できたことは確かである。成果としては、一応実習までにおおよそ台本はできあがってはいた。課題に対しては、実習から帰ってからのこととなった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

目標、改善計画については、練習に取り組めていないため、今からの学生次第の計画による。今年もそれぞれの課題について取り組んでいく予定である。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

年々、保育士としての自覚が足りないような気がするので多くの活動を増やし、意識と肉体の共感によって感性を育てたい。毎年の事ではあるが、現在のコンフォートゾーンから理想のコンフォートゾーンの移行を目指したい。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実技なので、かなりの意識と成果の差がある。一人一人の課題を考え、挑戦したい。自覚の問題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ゼミナール	20Y	4.4	4.6	4.6	4.6	43.3分	4.6
音楽演習	20Y	4.4	4.4	4.3	4.2	38.2分	4.2

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

前回と同じく問題点、共同課題に対して自分の考えを発表し合い取り組んだ。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

課題は、常に興味関心を持って取り組ませることで、意識、意欲が目的と繋がっていない場合の誘導の指導である。
自分の課題、他者の課題、共通の課題をしっかり理解して行動し、感性と発信を大事にするよう指導していきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	中村　浩美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

個室での弾き歌い・歌唱のレッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことを念頭にレッスンしていた。学生の性格によっての指導方法も研究し、練習の仕方を少しずつマスターして、自らの練習レベルを高めていきながら、弾けるようになったと言う事・歌えるようになったと言う事の喜びと、保育者になる気持ちを高める意識に繋げる工夫ができた。学生の意見や考え・思いを随時聞くようにもした。結果学生も少しずつ心を開いて考えや思い、疑問点や改善点を話すようになってきた。全員ではないが意欲を感じられ努力するようにもなった。基礎的な音楽理論の認知度が低い学生においては、例年通り授業時間外で同意のもとレッスンをした。歌唱法においては授業外にレッスンをして欲しい学生多く、3人～5人を1グループとしてお互いの時間を都合しながら歌うための筋肉の使い方を始めとした技能法や、歌詞の大切さ・イメージ、各曲のポイントなどを丁寧に指導した。個人に対しての指導は聴いてる他の学生にも大変勉強になる。なぜ改善されたか、何が足りなかったなど、みんなで聴きあう意味も理解してのレッスンであった。何度もレッスンのアポイント取りに来てとても熱心であり、とても大きな成長がみられた事は当人達は当然の事、指導者自身も大変勉強になり今後に生かして研鑽を積みたい。ただ、声量がもともとない学生が悩んでいる点に於いて2年間で達成するのは難しいが、声量のみを先行せずとも歌う事の喜びを感じられる研究に取り組みたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・実技である事からオンライン授業ができないため、練習室やレッスン室、音楽室、音楽あそび室など、音楽授業に関してのコロナ感染予防を第　　一に授業を行う。
・コロナ感染予防に当たり、練習室やレッスン室、音楽授業に使用する教室の使用方法と、学生自身が感染予防の意識を持って練習室を使用するための指導を行う。
・初めてのⅡ班制を把握して学生への指導をスムーズに行う。
・教員間の報連相を密に、学生の進度状況を理解しておく。
・マスク着用だからこそマスクの下に隠されている口角から表情筋を使って、笑顔で大きな口を開けてしっかり挨拶する習慣をつける指導をする。
・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
・やる気にさせる言葉や授業内容及び進め方の工夫をする。
・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
・演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しみを感じてもらう。
・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる助言と指導を行う。
・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促す。
・歌唱法のレッスンに於いては、ピアノレッスン以上に感染防止の策を考え、広い教室で、間隔とキョリを空けてマスク着脱で行った。喚起やアル　コール消毒、水分補給にも常に気を配りながら行う。
・自分の声、歌唱法のコンプレックスを解消するためのレッスンを行う。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を和らげるための関わり方をしたと思われる。しかしマスク着用のため学生の顔と名前が一致せぬまま進行するときもあった。名前で呼ばれる方が学生も親しみを持つためマスク着用でも名前を覚えること。マスク着用のため声楽(歌唱法)の授業を行うのは大変難しく、後期も同様であるためマスク着用でも表情が明るく声も明るくなる指導を強化したい。また、いイメージ力が乏しくなっている昨今の学生に、歌詞読みを徹底させてイメージ力の大切さと、その思いを持って歌唱する指導を、学生よりの発表を主体的にしながら指導する。2年生は特に実習を終えて就職活動を行い、来年の今頃は現職の先生になる事を意識させて、積極的に気付いて・動いて・元気な挨拶ができ言葉遣いを考えられる事を常に指導していた事が実習に生きたと言う学生からの声を聞けた。今後も継続する。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.4	4.4	4.4	4.4	30.0分	4.4
音楽演習	20Y	4.4	4.4	4.3	4.2	38.2分	4.2
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
データがありません																

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞれ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しようと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できるための指導をしたい。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
・マスク着用関係なく、みんなが笑顔でしっかりした声で挨拶ができるよう、褒める事も大切に指導していく。
・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機　教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに伸びるよう指導したい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	南條　恵

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

分かりやすい資料を作成し、授業がスムーズに進むような準備をおこなう。
話し方、学生への問いかけの仕方などをその都度振り返り、工夫する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

教科書を細分化したパワーポイントを作成し、スライドに添って授業を展開していく。
オンライン授業では、パワーポイントのスライドに添って音声を入力しYouTubeにアップしていった。毎回、課題を提出することで出席とみなした。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

初めての授業ということで戸惑いも多く、授業内容も改善点が多いように思う。
今後は学生の「わからない」に細かく答えていけるような授業を作っていきたい。
また、学生がもっと興味を持つような授業の内容、進行を工夫していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの保健演習	20Y	4.0	3.9	4.0	4.0	43.8分	4.0
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.6	4.6	4.6	4.6	38.6分	4.7
子どもと健康	21Y	4.1	4.0	4.1	3.9	58.5分	4.0
子ども家庭福祉	21Y	4.2	4.1	4.2	4.1	53.1分	4.1
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの保健演習	20Y	選択	92	85.8	34	37.0%	41	44.6%	14	15.2%	3	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと健康	21Y	必修	97	78.2	8	8.2%	37	37.8%	36	36.7%	17	17.3%	0	0.0%	0	0.0%
子ども家庭福祉	21Y	選択	97	80.8	12	12.2%	52	53.1%	23	23.5%	11	11.2%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

定期試験前には多くの学生が質問等に訪れたが、普段は、学生自身が主体的に学びに向き合う姿勢が少なく感じられる。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生の評価を参考にしながら、分かりやすく理解の深まるような授業準備ををおこない、学生の知識の定着に寄与したい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	福井　昭史

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

新規担当科目である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業の目標である、音楽及びそれによる教育についての知識を学生が理解できるよう、できるだけ体験を通した学習の展開を試みた。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

学習内容の理解にあたっては、創造的な学習を取り入れるなどし、教師の一方的な講義だけにならないような工夫を試みた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今年度初めて担当した科目であり、授業の内容に関する学生の実態の把握が十分でなかったが、おおよその実態を把握することがて来たことから、その結果を次年度の指導計画の作成に生かすことが課題である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.3	4.5	4.6	4.3	77.5分	4.3
子どもと表現（音楽）	21Y	4.3	4.3	4.2	4.1	26.3分	4.2
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.9	5.0	5.0	5.0	87.0分	5.0
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと表現（音楽）	21Y	必修	97	79.9	6	6.1%	45	45.9%	36	36.7%	11	11.2%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

創造的な活動である、歌や楽器による音楽づくりの活動を、学生５名によるグループで実施した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

楽器を用いた創造的な活動、音楽の聴取など、実際の体験を伴う学習、時間をおいての反復学習などが学生に好評であったことから、それらを指導計画作成の参考とする予定である。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	福井　謙一郎

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1．遠隔授業に関しては、学生の授業満足度が大きく下回ることはなく、比較的充実していたと考えられる。
2．フィードバックの内容をより充実させる必要がある。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1．学生へのフィードバックの方法について模索する。

2．ハイブリッド型の授業についてそのスタイルを検討する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1．学生に対するフィードバック方法について、動画内でのフィードバックのみならず、対面の授業においても質問等を扱うようにした。

2．講義科目に関しては、オンラインでの実施を行い、演習が必要な科目については、適宜対面での授業を行うよう心掛けた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業の全体満足度も減少することなく、授業の方針や運営が効果的だったのではないかと考えられる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
領域「人間関係」の指導法	20Y	4.2	4.3	4.3	4.1	63.3分	4.2
教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）	20Y	4.2	4.3	4.3	4.1	58.0分	4.2
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.9	5.0	4.9	5.0	52.5分	5.0
子どもと人間関係	21Y	4.3	4.4	4.2	4.1	51.3分	4.3
発達心理学	21Y	4.4	4.5	4.3	4.4	59.7分	4.5
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
領域「人間関係」の指導法	20Y	必修	92	83.2	11	12.0%	60	65.2%	15	16.3%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
教育相談（幼児のカウンセリング理論を含む）	20Y	選択	92	82.0	12	13.0%	59	64.1%	15	16.3%	6	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと人間関係	21Y	必修	97	74.2	2	2.0%	63	64.3%	0	0.0%	32	32.7%	1	1.0%	0	0.0%
発達心理学	21Y	必修	97	75.4	10	10.2%	34	34.7%	24	24.5%	29	29.6%	1	1.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

積極的に実施している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度は学生の理解度がより深まる授業実践を行う。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	船勢　肇

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・幅広い教養への関心については、一見関係の無いような題材であっても、幼児教育への関わりに言及すると効果的であった。ただ、卒業後も幅広く学ぶ態度の定着には困難を感じた。
・文章の改善はみられたが、段落をつける習慣もない学生も多くみられ、基礎的な文法が定着しているとはいいがたい。その意義づけをより丁寧におこないたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・引き続き、狭い視野にとらわれず、広く学ぶ意義を伝えたい。
・特に文章力については、実習先や就職先から指摘されているため、引き続き積極的に取り組む。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・保育の仕事を通して、どのように社会的な役割が果たせるのか、理解してもらうよう講義の題材を考える。
・文章の添削を丁寧におこない、その意義を理解できるよう工夫する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・「難しい」というコメントがありながら、理解できるという評価も得られた。学生の意欲や理解度が向上しているようだが、これがもし授業の水準を下げていることに起因するのであれば、決して喜ばしいことではない。「全体的な満足度」が向上することと、教育の質が向上することとは必ずしも直結しないことに注意しつつ、あくまで指標の一つとして受け止めながら、改善に取り組みたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	3.0	3.0	3.3	3.0	50.0分	3.0
子どもと言葉	21Y	4.2	4.2	4.3	4.2	52.7分	4.3
教育原理（教育史を含む）	21Y	4.3	4.4	4.2	4.1	50.9分	4.3
保育原理	21Y	4.3	4.2	4.3	4.1	54.8分	4.2
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと言葉	21Y	必修	97	71.6	0	0.0%	5	5.1%	60	61.2%	33	33.7%	0	0.0%	0	0.0%
教育原理（教育史を含む）	21Y	必修	97	72.4	1	1.0%	4	4.1%	67	68.4%	26	26.5%	0	0.0%	0	0.0%
保育原理	21Y	選択	97	72.1	2	2.0%	11	11.2%	43	43.9%	42	42.9%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・実習先や就職先から文章力が課題と指摘されることも多いため、レポートについて丁寧な添削を行っている。しかし、一人一人への寄り添った指導をおこなう上では時間的な制約を強く感じている。

・オフィスアワーはもちろんだが、学生からの質問には随時対応している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・「難しい」というのが興味を失うことに帰結してはいけないが、難しい問題に触れもしないというわけにはいかない。短期大学にも市民教育の責任が求められていることを念頭に、学生の興味関心と深い理解を両立できるよう、引き続き改善に努める。
・ゼミナールについては、学生主導でおこなっているが、より学生の考えを聞く姿勢を心がける。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	松尾　公則

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

ヒトと生物は、生活創造学科の学生だけであるが、昨年と比較し13名と受講者が大きく減少した。そのため、標本や実物を一人ひとりにゆっくりと見せる時間が取れたことから、積極的な受講態度でもあり、講義にも十分満足してもらったと思う。栄養士の科学は受講態度が今一であり、寝たり集中できない学生が数名見られた。また、知識差や能力差が大きく、講義の展開に苦労した。毎年異なる学生集団に教材の多様な準備の必要性を感じた。卒業研究は前期からの活動により、後期にはまとめの時間をとる事ができた。同様に活動していきたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

ヒトと生物は、昨年度より受講者が少なかったため、受講生全員に標本や実物にゆっくりと見せることができた。栄養士の科学は、演習の時間や多様なプリントの準備をして、多少の能力差があっても満足できるような講義につとめたい。卒業研究は、前年通り前期に主な研究が終わるように工夫したい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ヒトと生物は、標本や実物を実際に見たり触ったりする時間が増えたので、学生の意欲も高かったように思う。栄養士の科学では、昨年同様、教える内容を多少減らし、難しい分野の演習と理解につとめたが、一部の学生を集中させることができなかった。卒業研究は、早目早目の作業を実践した

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度も高い値（コースごとに、４．７　４．５）を示しており、講義の展開や工夫にある程度の評価を得たものと思うが、昨年度よりも減少している。更に、内容の充実や工夫を図っていきたい。栄養士の科学は、全体的な満足度が４．２で昨年度よりも、0.5ポイント減少している。昨年度から必修となり全員受講となったが、学習意欲の差が顕著の中、更なる教材の工夫の必要性を感じた。内容についても簡単すぎるという意見もあれば、難しくて理解できないという意見もある。化学の基礎が分からない学生に焦点を当てながらも、学んで楽しい講義を目指したい。卒業研究は予定通りに進行している。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
ヒトと生物	20S	4.9	4.9	4.4	4.8	6.7分	4.7
ヒトと生物	20L	4.5	4.5	4.5	4.5	15.0分	4.5
ゼミナール	20Y	4.0	4.1	4.7	4.6	21.4分	4.7
栄養士の科学	21S	4.2	4.1	4.2	4.1	22.5分	4.2

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ヒトと生物	20S	選択必修	11	94.1	10	90.9%	1	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ヒトと生物	20L	選択必修	2	#####	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
栄養士の科学	21S	必修	23	84.2	13	54.2%	3	12.5%	1	4.2%	7	29.2%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクテイブラーニングは実施していない。オフィスアワーでは、栄養士の科学の件（講義内容に対する質問）で来室があり説明を行なった。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

ヒトと生物は、さらに内容の精選と充実を図り、地球環境や生態系について話をしていきたい。栄養士の科学は、栄養士を目指す学生にとって必要な化学の基礎を学ぶ時間と認識し、苦手な学生のための講義を実践していきたい。卒業研究は新たな目標を開発していきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	本村　弥寿子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

遠隔授業を取り入れたが、学生は対面授業とさほど変わらぬ成績であった。動画配信であるため何度も視聴できるという利点はあるが、学生によっては素早く流しただけの視聴もあった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

学生が飽きることなく視聴できる、授業動画を作成する

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

授業動画での教員の話を端的に短くすること、さらに、抑揚や身振りを意識し、秋の来ない動画の作成を意識する。レジュメに関しては、1コマの授業の流れが分かるもの、また、押さえておいてほしい授業のポイントが一目でわかるものを作成する。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

遠隔授業の内容やレジュメに関しては満足度が高く、意識した点が功を奏したことがうかがえた。成績についても予想通りと言えた。ただ、学生によっては、遠隔授業ならではの授業の仕組みについてこれないものが出てきたため、学生指導が必要となり、特定の学生に対しての指導時間に割かれることとなった。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育方法論	20Y	4.2	4.1	4.1	4.1	45.5分	4.0
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.7	4.7	4.8	4.7	46.4分	4.8
子どもと環境	21Y	4.4	4.5	4.2	4.1	44.4分	4.4
保育内容総論	21Y	4.5	4.5	4.3	4.3	51.3分	4.4
遊びの文化（指導法）	21Y	4.4	4.6	4.4	4.4	89.7分	4.5
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育方法論	20Y	選択	92	75.1	8	8.7%	29	31.5%	26	28.3%	29	31.5%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと環境	21Y	必修	97	72.0	6	6.1%	15	15.3%	22	22.4%	55	56.1%	0	0.0%	0	0.0%
保育内容総論	21Y	必修	97	68.6	3	3.1%	14	14.3%	16	16.3%	64	65.3%	1	1.0%	0	0.0%
遊びの文化（指導法）	21Y	選択	97	85.8	37	37.8%	41	41.8%	13	13.3%	7	7.1%	0	0.0%	0	0.0%

５．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
オフィスアワーの時間以外に来室する学生がおり、時間が許す限り対応を行った。教材作成やレポート課題は、授業で学んだことに加え、参考書やインターネットを使用して学生自身で必要な知識や技能を模索しながら取り組めるようにした。
６．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）
遠隔授業を取り入れる場合、教師が対面で学生の理解度や姿を確認できない分、丁寧な説明や取り組みの進捗状況把握にも力を入れ、学生が速やかに学びを勧められる体制を構築したい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	山中　慶子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は、授業担当初年度であったため、前任の授業内容を引き継ぎ、造形に関する内容を出来るだけ幅広く取り上げることを念頭に授業を行った。学生のレベルや製作の進度に関して手探りであったため、授業内容を変更しながら柔軟に進めていった。科目それぞれの、学生に合った到達目標と内容・方法が定まったことが成果である。

課題は、図工・美術に関してマイナスな感情を持つ学生が、肯定的な感情を持つようになるための授業内容、説明の仕方、声掛けの工夫である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「子どもと表現（造形）」では、技法あそびを通して、学生の造形技術のスキルアップを目標とする。作品掲示・鑑賞にも力を入れていきたい。

「子どもの絵と製作（指導法）」では、幼児の造形計画や、幼児に指導する際のスキルについて実践を取り入れながら授業を行うことで、学生が保育技術を身につけることが目標である。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

「子どもと表現（造形）」では、個々の製作を主とし、各授業での学習内容をスケッチブックにまとめていくスタイルを考えている。

「子どもの絵と製作（指導法）」では、グループワークや模擬保育を主とし、協調性や集団での役割分担についても学ぶことができるような内容を考えている。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の作品製作への取り組みや、発表の内容などから、主体的に取り組んでいる様子が伺えた。コメントも「分かりやすかった」との声が多かった。
席の配置の関係から、仲の良いメンバーが集まると製作中の会話が増えるため、「楽しく製作」と「雑談」の線引きをしていきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの絵と製作(指導法)	20Y	4.4	4.4	4.3	4.4	35.1分	4.4
保育実習指導Ⅰ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	40.0分	4.3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4.3	4.3	4.3	4.3	41.2分	4.3
ゼミナール	20Y	4.3	4.3	4.0	4.0	22.5分	4.3
子どもと表現（造形）	21Y	4.6	4.7	4.5	4.6	38.4分	4.7
遊びの文化（指導法）	21Y	4.4	4.6	4.4	4.4	89.7分	4.5
保育実習指導Ⅰ	21Y	4.5	4.5	4.5	4.5	49.4分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの絵と製作(指導法)	20Y	必修	92	79.2	6	6.5%	45	48.9%	39	42.4%	2	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
子どもと表現（造形）	21Y	必修	97	82.5	19	19.4%	48	49.0%	28	28.6%	3	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
遊びの文化（指導法）	21Y	選択	97	85.8	37	37.8%	41	41.8%	13	13.3%	7	7.1%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

演習科目であるため、ほとんどがアクティブラーニングである。スマホでのイラスト検索も可としているため、手が進まない学生はほとんど見られない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「子どもの絵と製作（指導法）」は、現在1年後期～2年前期の通年科目であるが、「子どもの絵と製作（指導法）Ⅰ」「子どもの絵と製作（指導法）Ⅱ」として開講することを考えている。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	池田　光壱

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

授業評価アンケートおよび定期試験の結果から、学生の理解度ならびに授業環境は概ね良好であると思われた。また、学修のポイントが押さえられていて確実に知識が定着したと推察された。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり、加えて授業外の学修時間が少ないので、充実した学修活動を促したい。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生を早い段階で認知し、学修のフォローを充実させていくことが今年度の課題である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

授業方法についてシラバスに「毎回予習と復習を兼ねた課題プリントを配布する。」と記載しており、受講学生全ての理解度を授業進行にあわせて常に確認するために、今年度は予習と復習を兼ねた課題を課し、その結果をフィードバックすることで、学生一人一人の理解度を確認しながら確実な知識の定着を図る。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

「2．今年度の目標・改善計画」に基づいて課題プリントの作成を考えていたが、他の科目の課題との兼ね合いについて学生に聞き取りを行ったところ、課題を課すことによって負担が大きくなる恐れがあったので、課題プリントによる学習は実施せず、知識の定着を重視して前回授業の復習の時間を増やした授業構成にした。また、特に知識の定着が不十分と思われる学生に対しては、授業時間内に教員から声をかけて質疑応答というかたちで対応した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果について前年度と比較したところ、「内容やレベル」4.1→4.3、「教員の教え方」4.1→4.4、「学生の学習意欲」4.0→4.2、「学生の理解度」4.0→4.2、「全体的な満足度」4.3→4.4となっており、これらに関しては改善が確認された。一方、「授業外学習時間」36.8→23.8分となっており改善が必要である。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	21S	4.3	4.4	4.2	4.2	23.8分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品学Ⅰ（食品成分の科学）	21S	必修	23	81.8	9	37.5%	6	25.0%	4	16.7%	5	20.8%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング（以下ALと略記）は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型（学生⇔教員）の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行をができた。しかしながら、前年度同様に全ての学生に目が行き届いていなかったことが次年度に向けての改善点である。オフィスアワーは実施していない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

現在の授業方法で概ねうまくいっているが、結果的に今年度も授業時間外学習時間が23.8分と短いので、次年度は先ず学生の学習状況を把握した上で、授業外学修に活かせるような教育支援の方法を考えていきたい。授業外学修の時間は約60分を考えている。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	井上　靖久

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

解剖生理学、すなはち人体の構造や機能、あるいは健康の維持や疾病の成り立ち等に対する興味や理解の助けになるように、実習を行った。その為の自分自身に当てはめる態度や環境の変化に対する順応性についての理解は前々年度よりは深まった。また、ある程度は自分自身への客観的態度は身についてきた。また、他者へ説明するいよくもみえてきた。しかし他者を納得させるにはどうするかは今後の課題である。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

前年度からの最も大きな課題は人体構造や機能にたいする理解を進めることに加えて、客観的な興味を、他者に説明するに際しての、説得する力というより、説得する意欲の不足と、そのためのより確かな理解と熱意、あるいは説明することへの喜びを伝えられないものかと思っているところである。このことが今年度の目標となる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

実習の目的の周知に始まって、特にレポートの準備に必要なことを実習前から意識させることが重要である。また、レポートの評価帆基準を十分理解させておくことにも留意しなければならない。学生の意識や力にばらつきはあるが、出来ればグループでの共通理解を実習項目そのものだけではなく、提出するレポートの内容についても協力して作り上げるたいどを養ってもらいたい。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は昨年度と大きくは変わらなかった。授業外の学修時間が83.6時間から112.1分に大幅に増えたのは、レポートの評価基準をある程度は伝えられたかと思うが、まだまだ不十分であると考えている。また、理解できなかった・あまり理解できなかったを合計すると10%程度いるので、解剖生理学の講義も含めて次年度の課題である。授業の満足度は全体平均よりはわずかに上回っているものの、難解な科目とはいえ、さらに努力したい。最後にA評価の割合が大幅に下がり、B評価が増えているのは学生の成績低下を指しているのではなくて、到達目標を高めた為で、学生の成績がっ下がったことを意味しないことを付け加えておく。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
解剖生理学実習	20S	4.4	4.4	4.4	4.1	112.1分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
解剖生理学実習	20S	選択	23	76.5	3	13.6%	5	22.7%	9	40.9%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実習に際して、グループとしてレポートの準備に必要なことを実習前から意識させることやレポートの評価基準を十分理解させておくことにも留意した。グループでの共通理解を実習項目そのものだけではなく、提出するレポートの内容についても協力して作り上げるために、より多くのやり取りを実習前・後、レポート提出まえ・後にも行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

年毎に、学生の取り組みの格差が大きくなっていっており、これを如何に乗り越えるかが困難であり、また同時に価値の高い課題でもある。学ぶことの喜びとその価値の高さを少しでも伝えてゆきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	鵜川　佐由美

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では、自分自身の演奏レベル到達までかかる時間を日頃の練習・試験での結果から計画を立てることが課題にあがっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①基礎理論を理解し、読譜することができるようになる
②保育現場の必要な生活の曲・幼児のうたの弾き歌いを習得する

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

ピアノ演奏指導…個々のレベルに合うエチュード集・曲集等を選別し、奏法指導、子どもの歌と伴奏を個々に合うレベルに編曲し奏法指導
歌唱指導…どう体を使って歌うか、伴奏とうたのバランスを指導する

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケート結果より、特に問題はないと思われる。例年より学生の学習意欲が上がっているのは良いことである。ただ、授業外学習時間が昨年の120～130時間から減っているのが分かる。課題が少なかった学生がいるかもしれない。学生のレベルに応じてもう少し課題を与えても良いかもしれない。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.1	3.9	4.0	4.0	80.0分	4.0
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.5	4.4	4.5	4.5	84.0分	4.4

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、園から出された課題、または授業の課題の指番号やリズムなどを指導した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年から、一週ごとのレッスン制に変更されたので、1人にかける時間が昨年度から２倍に増えた。その分より深い奏法指導・表現力の指導をしたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	内田　誠

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

苦手意識を持たせない事が最大の課題

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

自主的に練習できるよう意識付けと言葉かけに工夫

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

例年通り、学生同士の演奏を聴き合う事で更なる意欲向上を目指す

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1年生の「子どもの歌と伴奏法」では、2週に1度の中で、理解している方だと思われるが、2年の「保育と音楽表現」のポイントが低い事には非常に残念です。より丁寧なレッスンを心掛ける必要がありそうです

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.1	4.0	4.1	4.1	100.0分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

理解していない者を一人も出さないようフォローにも力をそそぐ

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	大野　陽子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度においては、積極的に学ぼうとする学生の高い意識が見られた。
学生一人一人が、自ら考え工夫し実行する姿勢が、より高い表現力や技術の向上へと結びつき、目標へ向けて確実に一歩ずつ進めているように感じる。
引き続き学生に寄り添ったレッスン・指導を心がけていきたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①基礎理論を理解し、読譜できるようになる
②バイエル教則本を終了する
③保育現場での必要な曲（生活の歌）、幼児の弾き歌いを習得する
④簡易伴奏法、コード奏法の習得
⑤表現豊かに明るく楽しく歌えるようになる

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

今年度は、「心豊かに笑顔で生き生きと歌うこと」により重点を置き、実践・指導することになった。「弾き歌い」に伴う「ピアノを弾く」技術も必須だが、「歌う」「弾く」ことのバランスをうまくとりながら限られた時間を有効に使って、より高い表現力を目標に・・・個人又はグループでのレッスンを進めていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

コロナ禍において、前期はなかなか思うように授業を進めることができなかった。やむを得ず欠席の学生は、後日少しでも時間を見つけて補講をしたりしたが、それでもなかなか成果の出ない学生もいた。今後そのような学生には、より深く気を配り、普段の何気ない会話や声かけ、具体的なアドバイス、寄り添った指導が必要であると実感している。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.8	4.6	4.8	4.7	113.3分	4.6
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.9	4.9	4.6	4.9	78.8分	4.9

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施していない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

コロナ禍において、マスクをしたままでの「歌唱指導」は厳しいものがあるが、声はあまり出せなくても、明るい表情や楽しい雰囲気、嬉しい気持ち・・・など、音楽を通じて喜びを皆で分かち合えるように、この状況だからこそできることを実践していきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	尾崎　好子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は学生による授業評価アンケートの結果から講義方法に大きな問題点はなく成績分布もほぼ好評化で受講態度もよく、意欲的に講義に挑んで頂いていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（1）どんな質問も気軽に行える雰囲気を作る。
（2）受講生の立場に立った見やすく分かりやすい板書を行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（1）今回も遠隔授業のため、受講生にこちらの画面がどのように映っているか推測が難しい。カメラの位置、明るさ、字の大きさ、音声が受講生にストレスの無いようこまめにチェックをしながら進めることを心がけた。
（2）遠隔でも受講生とコミュニケーションを取り、気軽に質問ができる雰囲気づくりを行った。
（3）講義資料を活かし全員が診療報酬明細書を書けるようになるために、受講生自身で問題を解く時間をもった。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は特に問題がないと思う。
授業の要望、感想で講義に対して満足頂いた感想が多い中、「こちらの音声が入らない程度に無駄話をする人たちがいたので、聞き取れない部分がありました」と気になる感想を頂いた。対面ではすぐに注意を行えるが、遠隔のため学生全体が見えず、すべての受講生に快適に楽しんで授業を受けて頂くことができなかったことが残念に思う。
また、授業が難しかったと答えた2名の受講生について、何が難しいと感じたのか、直接話ができればよかったと反省する。今後、遠隔授業がある場合はこちらから積極的に語りかける必要性を感じた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
医療事務実技	20L	4.6	4.6	4.8	4.6	49.5分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
医療事務実技	20L	選択	17	90.3	12	70.6%	1	5.9%	3	17.6%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

分からないことはないか、度々受講生に問いかけるようにした。
頂いた質問は全体へフィードバックを行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

前回同様に積極的な受講生は気軽に質問をしてきたが、今回のアンケートで難しいと感じた2名のように難しいと感じた部分を質問に来れない受講生まで対応できていなかったと反省している。
次年度は控え目な受講生への対応を念頭に置き、全員にしっかりと理解して頂き楽しく診療報酬明細書について学んで頂き、医療機関で働きたいと思えるような授業を展開していけるよう、受講生ひとりひとりに声をかけていきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	金　英泰

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テストなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。
ハングルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学びが効果を上げていると思われる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる。
②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。
③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとりいれる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もとり入れていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル3.8、教員の教え方3.9、学生の学習意欲3.9、学生の理解度3.6、全体的な満足度3.9であった。
語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハングルの発音ができるまで確認している。また、その都度、大きな文字を板書し、ハングルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに授業を行っていく。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
韓国語	21S	3.7	3.9	3.8	3.5	15.0分	3.9
韓国語	21L	3.9	3.9	3.9	3.6	20.5分	3.8

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。
②初期段階から、授業中に小テストを導入する。
③グループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる、課題発表など。
④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。（文化祭等で韓国料理を創作・発表）

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	堺　蘭

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生さんの意欲を評価したいと思います。健康上の問題で、計画通りにできませんでしたが、後期はしっかりして進みたいと思います。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

しっかり補講を行い、出来るだけ学生さんたちの要望を満足させ、目標を達成したいと思います。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

毎回の実用会話を実施し、より効果がある講義をしたいと思います。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

今までと同じように語学以外の中国文化なども取り組んで授業を進みたいと思います。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
中国語	21S	1.0	4.0	3.0	4.0	30.0分	4.0
中国語	21L	3.0	3.0	4.0	4.0	60.0分	3.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

より実用的な会話を出来るようにする。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	下瀬　和枝

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

・講義部分の難易度が課題
・配席は出席番号順としたが、後方の学生が積極的に授業に向き合えるかが課題
・正確に語彙を増やすことを目標に、小テストの回数を増やす
・コロナ禍により前年度開催できなかった、コミュニケーション体験を必ず実施し、通じる喜びを経験してもらう

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・実技が中心となるので学生同士でのコミュニケーション体験を多用する
・講義テキストの内容もＰＰＴで表示し、視線を上げて受講できるように工夫する
・ろう者が使う視覚的言語を、直接見ることで手話を身近に感じてもらう
・ろう者とのコミュニケーション体験を通して、社会人となった時に積極的に手話を使いコミュニケーションできることを目指す

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・学生同士２～３名でコミュニケーション体験、手話での発表を毎回取り入れた
・コロナ禍のため、席移動はせずに遠い席同志などでペアを入れ替えながらコミュニケーション体験を行った
・手話のＤＶＤを活用し、様々なろう者の手話を見てもらった
・シミュレーションで聴覚障害者への対応を学ぶ際の想定を具体的に設定し、手話の語彙数を増やす
・試験が手話実技の読み取りなので、学生が見やすい様に講師が移動して表現した

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・年度当初は消極的だった学生が、コミュニケーション体験を経験する中で、積極的に手を動かすようになった
・その反面、コロナ禍により席移動をしなかったことで後方の席の学生は、終始見え辛かったのではなかったかと思う
・手話実技指導の折に、つい手話のスピードが速くなり、学生からは見辛い、理解し辛い時もあったかと、反省
・聞こえないろう者とのコミュニケーション体験が実施できたことで、習ってきた内容の確認、復習や達成感に繋がった

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
手話講座	21L	4.3	4.0	4.3	4.1	32.5分	4.1

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
手話講座	21L	必修	24	73.9	1	4.2%	9	37.5%	5	20.8%	9	37.5%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・小テストや定期試験前には、積極的に質問があったので、学習の重要個所を伝達した
・毎日の生活の中でも、新聞や図書館の活用を勧めるようにして、個別の質問に対応した

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・配席は今年同様出席番号順とし、後方の学生も積極的に授業に向き合えるように、途中で前方との入れ替えを行う
・正確に語彙を増やすことを目標に、小テストの回数を増やす
・コミュニケーション体験を必ず実施し、通じる喜びを経験してもらう

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	高柳　篤江

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生は人前でスピーチをすることに初めはみな緊張していたが、簡単なテーマから進めることで、確実に力をつけた。課題としてはマスクをつけてのスピーチは声も聞き取りにくく、表情もわからないため、伝える力が問われることとなっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 人前でのスピーチに慣れる。
2. マスクで表情でのコミュニケーションが取りにくいため、話の組み立て方に力を入れ, わかりやすく伝える。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

毎回短時間でもスピーチをすることで経験を重ね、自信をつける。直後に的確な評価、アドバイスをし、納得してもらうようにする。ミニレポートで確認をする。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

真面目によく取り組んでくれた。個々に時間差はあったが、人前でも落ち着いてスピーチができるようになった。話の組み立て方もしっかり理解し取り入れる学生がほとんどであった。表情による助けが期待できなくても、わかりやすいスピーチができた。課題としては表情に代わる気持ちの表し方として、声の出し方、間の取り方などを体得したい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
スピーチコミュニケーション	21L	4.7	4.5	4.5	4.5	16.3分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
スピーチコミュニケーション	21L	必修	24	87.6	8	33.3%	16	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

質問は授業終了時、ミニレポートで受け付けるようにした。ミニレポートに2件、質問があったのでアドバイスした。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 人前でのスピーチの負担が軽くなるように、身近なテーマを取り上げるようにする。また己を知るによい時期なので、自分の内側を見つめながら話せるように指導する。
2. マスク着用でのコミュニケーションに必要なことを身に着ける。
3. ミニレポートに書かれている学生の反省、やる気を毎回生かせるよう努力する。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	タッド　サンダース

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

I improved on my goal to give students more practice time and more opportunities to speak English.

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

It's important to give students and much time as possible to use English.

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

I let then give presentations and practice in pairs.

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

I need all my objectives this year.

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
オーラルイングリッシュ	21L	5.0	5.0	4.8	4.6	24.0分	5.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
オーラルイングリッシュ	21L	選択	5	95.6	5	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

Because there were no office hours, I gave students time to causally talk to me. For active learning, students needed to find answers to questions by themselves.

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

To continuously improve student learning by providing opportunities to speak. I also provide timely feedback to help students

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	寺谷　陽子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

自分の課題達成にあった練習方法を見つけ、身につけること。出来た喜びを感じ、根気強く取り組める姿勢を身につけることが課題にあがっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)本時の課題を学生に話してもらうことで、課題の共有をし課題達成を実現させる。
(2)保育者として常に人前に立つという立場を意識し、挨拶や身なりなどを自発的に出来るようにさせる。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

(1)日々の学生生活の課題も含め、学生の状況や気持ちなどを把握出来るように話しやすい雰囲気作りを心掛けた。実技に関しては個々のレベルに合わせ、少しずつでも出来たという達成感を得られるよう取り組んだ。
(2)常に保育の現場でピアノを弾いていることを想定し、人前での話し方や身なり等、保護者になることを意識させた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

苦手意識を持つ学生が多かったように思うが、それぞれに一生懸命ピアノに向かっていたように感じた。まだ、保育の現場を想定するまでの余裕は感じられないが、今後はどのような状況で弾いているのか、今何が一番大切なのか、保育者としての意識付けなどの声掛けもしていきたい。自分なりの練習方法を見つけられるように練習方法を提供していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.4	4.4	3.9	4.1	73.3分	4.4
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.9	4.9	4.6	4.9	101.3分	4.9

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

個々のレッスンではあるが、2.3人のグループになっているので、課題達成に向けて学生同士でのコミュニケーションが見られ、自発的に今後の取り組みについて話し合いがおき、向上をはかる姿勢が見られた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

少しずつではあるが上達していく姿が見られた。子とも達が常にその場にいるイメージを持ち、ただピアノを弾くことに必死になるのではなく、表情であったり、気配りなどの心の余裕も持てるような指導をしていきたい。その為には根気強く出来るまで練習できるような声掛け、練習方法の提示をしていきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	中嶋　浜子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

基礎基本技能の習得を目標としてきたが、隔週授業による練習内容の浅薄化と及び技能定着の低下は否めない。ただ、学生には練習方法を十分に指導しており、今後なお、粘り強く技能習得できるような自己研鑽と努力に期待できる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく読譜する。
・保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・学生の個性力量に相応しい選曲をする。
・保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。
・学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アンケート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる必要がある。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.6	4.1	4.3	4.2	66.7分	4.1
子どもの歌と伴奏法	21Y	3.4	3.7	4.0	3.9	66.0分	3.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・昼休みや空き時間、学生からの相談に応じるとともに補充指導も行った。
・練習を毎日継続すること、疑問点は、すぐに質問してくるよう促した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・限られた時間の中、忙しい学生の意欲喚起へとつながるような声掛けをする。
・楽曲演奏から得た豊かな感性を子供達の指導に還元できる保育者を育てる。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	奈良　望

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度はコロナ禍のため授業の連続性が崩れ心配したが最終的には学期内に終了することができた。特に半期終了の時事研究は5週間ほどにまたがる個別のプレゼンテーションがほぼ予定通りに終わり安堵した。アンケートの結果からも学生の達成感がある程度感じられる。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

時事研究の授業では社会の仕組みやシステムを理解することを目指している。その手段として新聞に目を通すことを勧めており、毎回授業の初めには当日の新聞一面を紹介するようにもしている。課題として上記のプレゼンテーションと新聞の投書欄に関するレポートを課している。レポートのテーマについては今一度考えてみたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

コロナ禍の終息が見られず一部授業の時間変更等を余儀なくされたが、全般的にはほぼ問題なく完了することができた。半期終了の時事研究では例年より欠席が少なかったこともあり、授業ごとに六人の発表を4週できっちり終了した。レポートに関しては各人が新聞の投書欄から興味のある手紙を選び、その内容に関して意見・感想を書いてもらった。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

英語科目は前期が終わったところである。アンケートの結果を昨年度と比較して見ると幼児教育は余り差がないが、食物・ビジネス医療の方は全般的に今年度の評価が高い。おそらく昨年と比べて履修者数が若干減ったことが原因ではと思っている。個別に行っている会話練習は人数が少ない方が時間が取れるので、この点を後期も活かしていかれればと思っている。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
英語	20Y	3.7	3.6	3.9	3.6	30.3分	3.7
英語	21S	4.5	4.5	4.3	4.3	30.0分	4.5
英語	21L	4.4	4.6	4.3	4.1	37.5分	4.3
時事研究	21L	4.4	4.3	4.2	4.0	32.5分	4.2

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
時事研究	21L	必修	24	80.0	4	16.7%	14	58.3%	6	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

英語の授業内容に関しての質問は授業直後に受けることが多い。欠席連絡をきちんとするように自分のメールアドレスを学生に周知しているため、そちらに質問が入ることもある。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

・幼児教育の英語は英文プリント解説に半分強の時間を使っている。プリントは主にアメリカの幼稚園・保育園について書かれた新聞記事等でA4裏表以内の長さのものを選んでいる。残りの時間に会話練習をしているがプリントと会話のバランスは試行錯誤の状態である。
・時事研究では毎年一人ずつテーマを決めてプレゼンテーショをしてもらっている。それ以外に通常授業の中で学生が発言できる機会を増やせないか考えている。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	西田　聖子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

認定試験の過去問題を参考にし、講義の中で話すように心がけた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）診療録の基礎を理解させる。
（２）学生にパワーポイントによる発表の機会を作る。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）実務に置いて、ネットで調べる機会は大変多い。時代の流れと共に、ICD-10、２巻、３巻で調べる機会は実務においても減り、PCのソフトの利用となっているので何か疑問が出たときはスマホで検索させるようにした。
（２）2年目となるコロナ対策、現場の状況・職員の日常生活（規制）を伝えた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

昨年と比較し、教え方、意欲、満足度が落ちている。講義中、パワーポイントを使って一方的な話になっていたのかもしれない。
学生とのキャッチボールを大切にしたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
図書管理論	20L	4.2	4.2	4.2	4.2	66.0分	4.2

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
図書管理論	20L	選択	5	90.8	4	80.0%	1	20.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

なし

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次年度講義予定なし

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	宮﨑　美保

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、学生自ら考え動き楽しみながら向上していける授業を行う。
講義は、わかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
(2)学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
(3)講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）実技科目活動目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。
（２）活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。学習記録をチェックすることで学生の困っていることや意見など把握でき、コメントを書くことでより良いアドバイスをすることできた。実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、できると自信につながった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく姿も見ら自ら工夫して活動できるようになった。学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。体育講義の授業の後に学習記録を書かせることでしっかりと復習をすることができた。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生涯スポーツ	21S	4.6	4.7	4.6	4.7	13.6分	4.7
生涯スポーツ	21L	4.8	4.7	4.4	4.5	7.5分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後に実技課題など上手くできないと質問・相談があり、運動の分析の仕方・習得の方法を指導し、一緒にその課題克服を目指した。できるようになりそれが自信となって楽しんで活動する姿が見られるようになった。授業以外でも運動をする習慣が増えてきている。コミュニケーションを上手く取れないとの相談にもアドバイスをして授業中も見守りながら声掛けをして楽しく授業ができるように導いた。体育講義は、身近なものや実体験を通してわかりやすく話すことで共感して悩みや疑問に思っていたことなど話に来るようになり、学生が求めている内容を授業に取り入れて向上につながった。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1)実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
(2)さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
(3)講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	宮﨑　洋子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

学生それぞれが自分の課題が見えてきて練習に取り組む必要性を分かってきたものの、継続的に習慣化する事が難しかったようである。試験が見えてくると上向きになりそうでないときのモチベーションとは差があり気になるところである最初の取り組みから自分なりにコツコツと作り上げていった学生は結果につながっていたと感じた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

今年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていかなければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合によっては集中的に１つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

今までより、１回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できるようにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけに目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業であっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。１年生の学習意欲は後期と変わらず向上心が見受けられる。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.6	4.6	4.6	4.7	113.3分	4.6
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.6	4.6	4.6	4.8	90.0分	4.6

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業終了後、簡易楽譜の対応や伴奏形態についての質問があり、昼休みやSNSを通じて解答した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

短期間ですぐに結果が出る授業ではないので、日々の積み重ねの重要性をいかに理解してもらうか毎回学生と一緒に取り組んでいき、小さなステップアップを大事に進めていきたい。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	村川　千佳

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

1. ピアノの定期試験に向けての指導と並行して、保育の現場で役立つ内容も取り入れた。
2. 就職後、自信を持って指導できるようピアノ・歌唱共に実力の向上を目指した。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

音楽の基礎的な力の育成と共に、豊かな音楽的表現についても指導する。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

1. ピアノ・歌唱において、技術の向上及び音楽的表現の充実
2. 歌唱について、保育の現場で活かせる発声法・発語・表現の指導

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

入門レベルから初級・中級・少数ながら上級レベルと学生のピアノのレベルは様々あるが、全員が真剣にレッスンに取り組む姿勢を感じられた。今後も学生各々のレベルを見極め、必要な指導を行い、各人のレベルアップに努めたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.4	4.5	4.6	4.5	71.3分	4.6
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.5	4.5	4.5	4.6	92.7分	4.5

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

空き時間に熱心に質問に訪れる学生に対しては、極力時間を提供し、また、授業を欠席した学生についても時間を取り、補講に努めた。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

1. 音楽基礎力育成のため、理解しやすい指導を。
2. 表現する喜びを体感してもらい、それを現場で活かせるような指導をしたい。
3. 実務に活用できる柔軟な音楽力・人間力の養成に努める。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	村田　実智代

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

基本的な楽典の理解
テクニックの向上
弾き歌いへの興味関心の強化

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

個人に見合った教材選びとスピードに配慮する
コード奏法との関連強化

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

楽典の基礎強化
練習方法の徹底
コードを自ら工夫する

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

指使いを自ら決め、効率的な練習の強化
学習意欲を配慮した教材とスピード

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.0	4.3	4.3	4.0	120.0分	4.0
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.1	3.7	4.4	4.2	78.0分	3.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

学生のモチベーションに見合ったスピードに配慮する

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

練習方法の徹底
弾き歌いへの興味関心の強化

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	山浦　直子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度の授業評価報告書では、それぞれの学生と向き合い、学ぶワクワク感を引き出し、技術的な向上を目指すことを課題として述べていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1) 心を開いて課題に取り組めるようにアドバイスの仕方も工夫する。
(2) ″弾くこと″と″歌うこと″が一体となるような指導を行う。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

(1) 引き続き、内田先生の「コード奏法」の授業との関連を考慮する。
(2) 生き生きとした拍子感、リズム感を身につける。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学ぶ意欲を引き出すことを常に念頭に置いているが、学生それぞれに適した対応ができているか、いつも自分自身を客観視することを忘れず授業を進めることの大切さを再認識する。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.5	4.7	4.8	4.8	92.5分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実施していない。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

(1) 各学生の心理を見落とさないように、いつも受け入れる気持ちで授業を進める。
(2) 学生への課題をより具体的で無理のないレベルとして達成感を味わえるよう導く。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	山田　加奈子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度担当なし

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

「公衆衛生学」
・「公衆衛生」は私たちの生活に非常に関わりの深い分野であるが、内容が幅広いため、日々の生活と重なる箇所などを例として出すなどして、ポイントを押さえながら学生の理解に繋げる

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

・学生に理解を深めてもらうため、授業で配付する資料は穴埋め形式とし、スライドの説明をしながら書いて覚えていく形式にする

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

・授業が早い、プリントが多いなどの意見が見られた。その理由として、公衆衛生学は範囲が非常に広いため、多くのことを学んでもらおうとした結果によるものだと考える。そのためもう少しポイントを絞り、内容を簡潔化する必要性がある。
・毎回、授業の中で重点箇所については伝えていたが、広範囲かつ多くのプリントをただ毎回渡すだけではなく、口頭かつ授業の最後に紙媒体等で再確認し、資料として保管させて置き、見直す時間を与える必要がある。また授業の最初には「本日の目的」を示し、どの箇所を押さえて聴講すべきかを項目ごとに明確にする。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
公衆衛生学	20S	4.3	4.3	4.2	4.0	31.4分	4.2
公衆衛生学	20L	4.0	4.0	4.0	3.7	38.2分	3.9

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公衆衛生学	20S	必修	23	78.6	5	22.7%	6	27.3%	6	27.3%	5	22.7%	0	0.0%	0	0.0%
公衆衛生学	20L	選択	22	71.2	2	9.1%	3	13.6%	6	27.3%	11	50.0%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

・授業終了後に「公衆衛生学」についていくつか質問があったので、授業プリントを再度見直しながらポイントについて説明し、別途資料を読むよう促した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

次回の担当なし

令和　3　年 前 期　授業評価報告書	氏名	吉井　学

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度の課題はこの科目が後期の生化学実験に連結するものであるから学生が前向きに興味がある分野を示し、下調べを行い、他者へ教授することができるようにすることであったが。授業評価をみると授業への取り組みについては75%の学生が意欲が出たと回答している。しかし、授業の理解については理解できたものは約30%程度と低迷している。理解ができた学生は週に１時間半以上の授業外学習をしていると考える。授業の満足度は約55%程度が満足としている。45%の満足できない学生の満足を促す授業を実施するための方法を探りたい。　昨年度よりSやA評価の学生が増加し、C評価の学生が減少していることを踏まえると学生の興味はやや向上したものと推察する。C評価の学生が興味を持てる講義にしたい。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

生化学の解説に使用される専門用語の解説を丁寧に実施し、学生の理解度を向上させたい。そのために教科書の講義前の読み込みおよび理解できない文言の抽出と質問頻度を上げる。　学生が質問したいときにいつでも対応できるようにする。また、ヒトの体のメカニズムについて興味を持たせるためのQ&Aを増やしていきたい。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

授業開始前に質問の時間を設けた。質問に答えながら当日の講義内容へ連結させていった。さらに、自宅での学習中の質問についてはメールアドレスを公開し常に学生からの質問を受け付ける体制を整えた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前年度に比してC評価の学生が減少しS及びA評価の学生が倍増した。学生が人体のメカニズムに興味が持てたことの結果と考える。この現象をさらに上昇させるため学生の意見を細やかに取り入れる工夫を考え、実践したい。メール等による質問の受付を今まで以上に拡大させる。学生の全体的な要望が一致すれば補習の実施等も考慮する。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
生化学Ⅱ	20S	3.6	3.8	4.1	3.3	84.0分	3.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
生化学Ⅱ	20S	選択	23	74.9	4	18.2%	4	18.2%	4	18.2%	10	45.5%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

メールによる質疑は常に受信し、回答を繰り返した。その結果、一部の学生には教科書の読み込み、参考図書による調べができた学生が増加した。質問も多く出るようになった。試験前には学習まとめのための補習を実施した。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

前年度の比して成績評価のグラフが左方推移している。次年度はさらなる左方推移してC評価の学生を減少させたい。知らなかったことを調べる。教える。質問を受ける。と一連の作業として捉えさせることで、興味を導き出すようにしたいと考える。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	吉田　高文

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

前年度は、科目名「簿記会計学１」では、A評価以上の履修者割合が65.2%と高く、全体的に理解が進んでいるという結果であった。
　一方、前年度の課題は、日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていくこと、および理解が遅れている履修者に対しては、高校ですでに簿記を学習している履修者から教えてもらうといった学生同士の「相互学習」を促すことであった。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

科目名「簿記会計学１」では、以下の4つの目標を掲げた。
1. 複式簿記の構造を理解する。
2. 簡単な財務諸表を作成できる。
3. 商業簿記と工業簿記の違いを理解する。
4. 日本商工会議所簿記検定試験3級の取得を目指す。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

科目名「簿記会計学１」では、日商簿記検定試験3級の内容理解を進める授業を行った。また、2級の内容である工業簿記や原価計算の基礎についても説明した。具体的な活動内容は以下の通りである。まず説明プリントと練習問題のプリントを配布し、必要なつど電卓を貸し出して計算させながら授業を進めた。練習問題のプリントは毎授業後回収し、理解度を確認後、翌週に一部添削して返却した。また、欠席した学生には、次週にプリントを配布して理解度を確認させながら授業を進めた。ここまでは前年度と同内容であったが、今年度は空き時間を利用して、希望学生に問題練習を中心とした補習の授業を行った。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は、前年度とほぼ同様で、全体的な満足度は4.0で変わらなかった。ただし、授業外学習時間が前年度の45分から37.5分と減少しているため、この点の改善が今後の課題である。
　成績分布は、引き続きFは0人で問題なく、Cが8.3%と前年度の26.1%を下回り改善がみられたが、逆にSの割合が39.1%から8.3%と減少した。前年度よりも期末試験がやや難しかったかもしれないが、この点の改善を課題とする。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
簿記会計学１	21L	4.1	4.1	4.1	3.7	37.5分	4.0

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学１	21L	必修	24	79.3	2	8.3%	11	45.8%	9	37.5%	2	8.3%	0	0.0%	0	0.0%

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

科目名「簿記会計学Ⅰ」では、教員による一方向的な講義ではなく、学生に電卓で計算しながら問題を解かせるように進めた。
　オフィスアワーについては、規程どおり設けて、授業終了後の教室や非常勤講師控室で学生からの質問を受け付けた。とくに期末試験直前の質問が多かった。また、上述のように、空き時間を利用して補習も行った。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

科目名「簿記会計学１」では、以下の2点を次年度の目標とする。
（1）今年度に引き続き、科目名「簿記会計学Ⅰ」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていく。
（2）高校で商業を学んだ学生と普通科の学生とでは、学習開始時点ですでに差がついている。そこで、教材をより一層工夫しながら、既習者と初習者のそれぞれに満足できるような授業を目指す。

令和　3　年　前　期　授業評価報告書	氏名	吉田　智子

1．前年度の成果と課題（CHECK：検証）

昨年度の授業評価報告書では、実技は具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを伝える、そしてレッスンではコミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝えることが課題に挙がっていた。

2．今年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）現場ですぐに使えるような演奏力、歌唱力を少しでも向上させる練習方法を伝える。（２）練習の大切さの意識が低い学生への対応を考える。

3．今年度の活動内容・方法（DO：実行）

（１）伴奏付けなどアレンジなど工夫することにより、弾きやすくまたかっこよくなることなど伝えることを心がけた。（２）私自身の経験談を話し、練習の大切さを伝えるよう心がけた。

4．今年度の成果と課題（CHECK：検証）　※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

実習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だと感じた。授業アンケートでは、今回は２年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思う。

学生による授業評価アンケートの結果

科　目　名	対象学生	内容やレベル	教員の教え方	学生の学習意欲	学生の理解度	授業外学修時間	全体的な満足度
保育と音楽表現	20Y	4.1	4.1	4.2	4.0	73.3分	4.0
子どもの歌と伴奏法	21Y	4.9	4.9	4.9	4.9	107.1分	4.7

科　目　名	対象学生	必修選択	履修者数	平均点	評　価											
					S		A		B		C		F		W（脱落）	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5．アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後、質問がある場合はその場でできる限り対応している。

6．次年度の目標・改善計画（ACT：改善、PLAN：計画）

（１）演奏力を少しでも向上させる練習方法を伝える。（２）コミュニケーションをとりながら練習の大切さを伝える。